

東大阪市第6期地域福祉計画素案のパブリックコメントで寄せられた意見と市の考え方

寄せられた意見	市の考え方
<p>「居場所づくりについて」</p> <p>居場所づくりにおいて、「障害の有無や年齢に関係なく気軽に集まれる場所」が提起されており、「子ども食堂」や「高齢者の居場所」が進んでいるなか、誰もが気軽に集える「共生型」居場所については課題があると考えている。</p>	<p>第6期地域福祉計画では、重点事業1に「重層的支援体制整備事業」を位置付けており、その取り組みの1つである「参加支援事業」において、世代や属性を超えた交流の場や居場所の整備を目指しています。ご指摘のとおり、設置に向けた課題がある事は認識しておりますので、ひとつひとつ課題整理をしながら進めて参ります。</p>
<p>(文章の修正について)</p> <p>p.76「障害者スポーツの推進」の事業概要の説明 (計画案)</p> <p>・バリアフリーマラソンなど障害のある人が…(中略)障害者スポーツの活動の場所の確保や参加しやすい環境の促進に努めます。</p> <p>(ご意見)</p> <p>・バリアフリーマラソンなど障害のある人ない人が…(中略)障害者スポーツの場所の確保や地域交流しやすい環境の促進に努め、地域共生社会の実現を目指します。</p>	<p>障害の有無関係なくスポーツイベントに参加する場を設けることで地域交流や地域共生社会の実現を図ることは重要ですが、そのためには、まずは障害のある方がスポーツイベントに参加する機会を拡充することも必要です。</p> <p>いただいたご意見を基に、計画案を見直し、まずは障害のある方のスポーツ支援について言及し、その上で障害の有無や年齢、性別にかかわらず誰もが一緒に楽しむことができるウィルチェアスポーツの推進と共生社会の実現を目指す旨を記載しました。</p>

寄せられた意見	市の考え方
<p>「福祉教育について」</p> <p>障害の理解が地域の中でまだまだ浸透していない中で、子どもと地域市民の顔の見える関係性が希薄化し、福祉教育の内容にも地域差や個人間での差があると認識している。福祉教育に携わる同志や関係者だけでなく、公募委員等も含めた「福祉教育プログラム委員会」（仮称）等を設置できないか。また、子どもへの福祉教育とともに、大人に対するボランティア教育も必要ではないか。</p>	<p>福祉教育については、学校（教育側）と福祉教育の提供者（福祉側）が連携し、具体的なプログラムを作り上げていくなど、協力が不可欠であると考えております。大人に対するボランティア教育を含め、教育委員会や市社会福祉協議会をはじめとした関連分野との検討・協議を深め、連携して取り組みを進めてまいります。</p>
<p>「ボランティア活動について」</p> <p>ボランティア活動は生きがいと心身の健康をもたらし、地域の交流にもつながるなど、地域福祉の重要な要素と考える。地域福祉の観点からもっとボランティア活動を支援し、発展させる方法を考えてほしい。また、ボランティア活動が報われる状況をつくってほしい。</p>	<p>第6期地域福祉計画に掲げる理念を推進するためにはボランティア活動が果たす役割は、地域において重要であると考えています。いただいたご意見を踏まえ、ボランティア活動の広報・周知等に努め、より多くの方にボランティア活動を魅力ある活動と感じていただけるよう取り組みを進めてまいります。</p>
<p>「福祉に関するつながりについて」</p> <p>令和4年10月1日に施行された労働者協同組合法のような「フラットで、みんなで決め実践する」概念は地域福祉の「助け合い」の概念とマッチすると考える。</p> <p>労働者協同組合法の概念が広がり、子どもやハンデのある人、高齢者等といった方が交流し、社会的立場の弱い方たちから、地域社会の中で発信し、公的性の活動が決めていけるような組織が必要であると考えている。</p>	<p>第6期地域福祉計画の基本理念として、「つながり・支え合いの輪を広げていこう！誰もが安心して自分らしく活躍できる地域を目指して」と定めております。社会的立場の弱い方々も含めて、地域に暮らす多様な方が社会に参画し、ともに地域を創っていくことが地域共生社会の実現においても重要です。いただいたご意見については今後の取組みを検討していくなかで参考とさせていただきます。</p>